

<牧会ミニ通信>No.37 2021. 1. 31.

東京から2千キロ離れた沖縄です。そこには、わたしの親戚縁者は一人もいません。教会案内も出せないまま、家族四人で礼拝をスタートしました。いずれ、誰か来るだろうとの期待はありましたが、しばらく、数名の礼拝でした。

ところで、沖縄は亜熱帯です。住んでみれば、湿度90パーセントが3ヵ月続きました。6月末には、100パーセントとなり、妻の手に異様な斑点が発症しました。気が付けば、一日に5・6回シャワーを浴びます。思考力も鈍り始めました。書物を読む気になりません。適応障害とも思いました。わが娘が言うには、「お父さんは、シベリヤン・ハスキー犬」と言うではありませんか。観葉植物は異様なまでに巨大化します。沖縄という所は、短期滞在だけではわかりません。

琉球王国は、中国の属国であった「冊封（さくほう）時代」が500年続きました。琉球世（ユー）から、薩摩ユーを経て、明治11年、廃藩置県により沖縄県となりました。ところが、行政の主役はことごとく鹿児島出身者で占められていました。1945年「アメリカ・ユー」を経て、1972年、本土復帰と共に「沖縄ユー」となります。はじめて、「屋良朝苗（やらちようびょう）氏が初代沖縄県知事として就任しました。読谷村役場前の大きな看板には、「憲法9条」全文を見ます。本土ではありえない光景です。沖縄は、長い苦難を経て今日に至りました。屋根の上で悪霊が近づくのを見（にらみ）つけている「シーサ」の如き雰囲気の人と、しばしば出会います。しかし、それは外見だけのことです。新年会では、国会・市町村議員、新聞記者、ジャーナリスト、平和運動家などなど、それに町民を交えた、「ウチナー」達との「ユンタク」は、楽しい親睦の時でした。「芭蕉布の歌」一、「海の青さに、空の青南の風に、緑葉の芭蕉は・・・」が聞こえてくると、今でもなつかしさがこみあげてきます。読谷村における開拓伝道は、許されたわずか6年でした。それでも、沖縄本島から船が離れる時には、思わず合掌（感謝の体現）せずにはおれませんでした。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次